

第4回 大宮地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 平成31年4月20日(土) 15時00分～17時00分

2 会 場 大宮台自治会館 2階和室

3 出席者

- (1) 委 員 10人 *代理出席 1人(鹿倉委員⇒代理:豊田氏)
- (2) 事務局 5人 *教育委員会 企画課 山崎課長、古屋課長補佐、望月主任管理主事
星野管理主事、吉田主任主事
- (3) 傍聴者 15人

4 報告・議題

- (1) 【報告1】事務局・各団体より(前回協議会以降の動き)
- (2) 【議題1】大宮地区学校適正配置(修正案)について
- (3) 【議題2】統合校の議決の方法について
- (4) 【議題3】次回開催日時・場所

5 会議資料

- (1) 資料1:「大宮地区学校適正配置(修正案)について」
- (2) 資料2:「統合校の議決の方法について」

6 議事の概要

- (1) 【報告1】各団体より(前回協議会以降の動き)
事務局からは、前回協議会后に寄せられた質問とその回答内容について報告した。学校関係では大宮小で4月17日に保護者説明会が開催され、意見等が寄せられていることが報告された。地域関係では、各自治会の総会で学校適正配置について議題になったことが報告された。
- (2) 【議題1】大宮地区学校適正配置(修正案)について
【議題2】統合校の議決の方法について
各委員が統合校の設置場所として大宮小と大宮台小のいずれが適しているか見解を述べた。協議会の結論として、中学校の存続を前提として、統合校の設置場所を大宮小とすることとした。なお、意見陳述では大宮小とする意見が多数を占めたが、大宮台小を推す委員からは意見を撤回することはないが、協議会としての結論を尊重することが確認されたため、議決の方法については協議を行わなかった。
- (3) 【議題3】次回開催日時・場所について
事務局で学校適正配置に関する要望書原案の作成を行い、次回の協議会で検討することとなった。

7 発言要旨

- (1) 会長挨拶(廣瀬会長)
今回の議題内容については、前回想定していた協議の流れに従って進めていくことになると思う。前回協議会以降、各委員のところに様々な情報が入っていることもあると思うので、そういったところも含めて協議をお願いしたい。

(2) 協 議

報告① 各団体からの報告（前回協議会以降の動き）について

〈廣瀬議長〉 まずは事務局からの報告をお願いします。

〈事 務 局〉 まず、前回の協議会でのご質問にお答えする。伊藤委員より「大宮台小は元々中学校用地として取得され、大宮小の教室の不足に対応するため大宮台小が設置されたというのは本当か。」というご質問があった。過去の資料を確認したところ、小学校及び中学校用地として取得したという資料は確認できたが、ご指摘の内容に関する資料は確認できなかった。次に前回協議会の後に、保護者の方々から、教育委員会の方にご質問、ご意見があったためご報告する。一つは、統合についての採決を行う前に、幼稚園や保育所を含めた保護者、子どもの意見をもっと聞いた上で協議を進めるべきだというご意見であった。この意見は、前回の協議会の中でも鹿倉委員から大宮小学校の保護者からの意見として出されていたため、協議会の会長、副会長ともご相談した。それを受け、統合に関してはさらに慎重な議論が必要なことも事実であり、協議委員の方々にお伝えすると回答している。その他、道路整備を先に進めるべきというご意見、わくわくキャンパスの実施など、地域の方々に助けられて教育が成り立っていることを考慮してほしいというご意見、避難所の確保についてのご質問、大宮中学校付近の車両通行禁止区域についてのご質問、通学路の整備についてのご意見等があったため、関係部署と情報を共有しそれぞれに回答をした。

また、4月17日（水曜日）に大宮小学校PTA総会があり、総会終了後にお時間をいただき、保護者へ地元代表協議会の現状報告をさせていただいた。その中で保護者の方々から寄せられたご意見、ご要望をご報告する。

- ・協議の進行が早急すぎて、合意形成が得られておらず、今は議決をする段階ではない。
- ・近隣の保育園や幼稚園などに、もっと説明会を行ってほしい。
- ・地域に統合の是非に関するアンケートを実施してほしい。
- ・大宮台小ができた歴史や、現在の大宮台小の現状を考えれば、大宮小で統合するべきである。
- ・人数の多い大宮小の児童の通学路が変更になり、大宮台小へ通うことになるのは容認できない。

というご意見があった。

〈伊藤委員〉 説明会では保護者だけではなく地域関係者も参加していたので、保護者並びに地域関係者からであったものとするべきである。

〈事 務 局〉 承知した。

〈廣瀬議長〉 続いて各学校からの報告をお願いしたい。大宮小について報告をお願いします。

〈豊田氏〉 先ほど事務局から説明があったとおり、4月17日の説明会では保護者から様々なご意見が出されていた。統合の協議がなされていることについて初めて聞いたという方もいた。地元代表協議会というかたちで議論が進められているのに意見が一切聞かれていない、アンケートを実施したうえで、協議会で意見を聞いてほしいといった意見があった。また、統合するとしても何故大宮小ではないのか、学校の歴史から大宮小に戻せばよいのではないのか、何故大宮台小が統合校の案として存在しているかさえ疑問である、小中一貫校化に向けた政治的な圧力ではないかと思うとのことのご意見もあった。多数決による決議について、大宮小と大宮台小の二者択一の案ではなく、先日の説明会内容を踏まえて最速で統合を進めたいのであれば、大宮台小の児童を大宮小に戻す、または地元で合意形成を重視するために協議会を継続して進めていくことではどうかというご意見もあった。

- 〈廣瀬議長〉 大宮中について報告をお願いします。
- 〈伊藤委員〉 豊田氏からご報告があったように、4月17日には保護者と地域関係から北大宮と大宮台の方が参加されていた。そのなかで、教育委員会の説明があったが、何故千城小を統合の枠組みに含まないのかという声が多かった。新入学児童もなく、全校でも児童数が極端に少ない現状があることで、保護者や地域の方のご意見が多かったようだ。大宮中学校ではこれまでにアンケート調査を実施することについて発言してきたが、前回の協議会までに中学校が存続するということがあり、アンケートを実施するかどうかPTAの総務委員会で検討中である。必要があれば調査するようにしていきたい。
- 4月17日の説明会では協議会委員の選出に関してもかなり議論があった。行政経験のある方がいるのではないかとすることを強く懸念している方もいたが、その点は教育委員会で各地域の会長、保護者代表を選出しているということで、説明はなされたように思うが、どうしても納得がいかないという方もいらっしゃったようだ。アナウンスについても、学校適正配置について地元への説明が一切ないという方もいた。説明はしたところであるが、昨年12月の地元説明会について自治会ニュースを通して各家庭にアナウンスしていることを知らない方もいらっしゃるようだ。大宮台小について、鹿児島委員の案とPTAの案にずれがあると伺った。PTAでは、適正配置のなかで中学校を検討に組み入れる必要がなく、大宮小で良いのではないかと考えているが、会長が小中一貫について前向きに発言されているように思われ、大宮台小としての意見とは違うのではという声が出ている。
- 〈廣瀬議長〉 伊藤委員に指摘いただくよりも、寧ろ私に言ってほしいとは思う。
- 〈豊田氏〉 大宮台小の方に伺ったところでは、保護者まで意見が下りてきていないので、役員も事情が一切分からないようだ。
- 〈廣瀬議長〉 今のご意見を含めて大宮台小について報告をお願いします。
- 〈鹿児島委員〉 今のお二人のご意見について、協議会に出席することについて、代表ではなくPTA会長として出席するものとして前回確認している。協議会での対応は任されている。その状況のなかで報告を出そうかどうか話に出たことがあったが、会長の責任で参加してくるということになった。報告は特段出さない方向でいこうと役員にも理解されている。そのことについて反論もなかった。PTAの全ての方については、誰が誰に何を言っているか取り上げたらきりがなく、協議会の場で言うつもりもない。千城小のことについても、それはそれとして、今回置かれている状況に切り替えて協議を進めていきたい。
- 〈廣瀬議長〉 仰ったように、保護者に一任されているものという理解はしている。食い違う方もいらっしゃると思うが。
- 〈鹿児島委員〉 誰がどのように仰っても構わないが、今まで一貫して申し上げているのは、統合が決まっている以上、どちらの学校でも構わないという話をしていて、どちらかに結論付けたことは今まで発言していない。本来の結論は今回初めて発言する機会があり、何故そういった話が出てきているのか理解ができない。その時の協議の状況に合わせて発言ができれば良いと思っている。
- 〈伊藤委員〉 一任まではされていないと伺っているがどうか。総会もなく、事情もわからないままで手を挙げたという事実はあるだろう。役員以外の方が、全ての事まで任せるといふ意思まではあったかどうか。
- 〈廣瀬議長〉 役員会で決まった事なら、それで問題ないのではないか。
- 〈伊藤委員〉 それは役員会で決定されたことではないようだ。一任はされていないようだ。
- 〈鹿児島委員〉 前回も申し上げたし、昨年9月の説明会の時もそのことはお話をさせていただいている。昨

日、大宮台小のPTA総会が開催され、役員改選があった。会長を交代することで総会を進めていくなかで、今回の大宮台小の置かれている立場を、PTAの運営のことも含めて説明した。そのなかで、「学校の統合については不安があることと思うが、今後大宮台小になるのか大宮小になるのかわからない。一つ決まったのは、中学校は残るから安心してほしい」と説明した。「小学校は統合せざるを得ない状況にあり、統合の時期はいつになるのかわからないが、統合校の設置場所は地域での決定になるため、そこに対して協力してほしい」と説明した。大宮台小では統合に向けて、すべてのことを変えていこうということで、PTA会費の精算をしていく方向で話をして今回交代となった。PTA会費をなくすのは統合のためかというご質問が出た。今まで会費を積み立てたりいろいろなことを苦勞してきたが、統合で苦勞するのはみな同じだから、そのくらいの理解はしてほしいがどうかと伺った。それはそれでよいとのことだった。会費だけでなく、PTAのあり方も含めて新しい役員へ協力していただきたいがどうかと伺ったが、ご意見はなかった。まずは、現状として、協議会の示す判断を尊重することについて意見を伺ったが、反論はなかった。委任状の提出により、参加されていない保護者の方も一定程度いた。何か協議会で伝えてほしい事があれば聞きたいと言ったが、特に何も聞いていない。現状の報告として、どちらの学校で統合するのかかわからない、どちらになっても文句は言わないことで、新しいPTA会長へも引き継いでいきたい。

〈松坂委員〉 委員の責任制や、所属する団体のどこまで意見を吸い上げて会長として発言するかが混乱しているように思う。昨年12月6日の委員選任の際の資料で、自治会の代表者やPTAへの会長等へ依頼するようになっており、それぞれの団体の窓口として意見を吸い上げるだろう。ただし、地域のすべての方の意見を吸い上げるのは不可能であろう。役員会や通学パトロールを務めている方からは意見を聞いて発言はしているが、すべての会員から意見を伺うのは不可能である。全体説明会が開催されることの回覧通知も徹底し、なるべく意見を言っていただけよう配慮したが、実際の参加は4、5名程度であった。こういった状況をみると、PTAの方々に意見を伺うといっても、話を聞いていないという方はどうしても出てきてしまう。これを持ち出してもきりがない。ある程度は団体の中での意見聞いて、自らの発言をするしかないだろう。

〈廣瀬議長〉 他の団体でそのような方が1人でも2人でもいたらどうするのか。

〈伊藤委員〉 ご自身の都合の良いように発言をされているのではないか。9月に総会を開催したものをまるで1、2月に臨時で行ったように発言されている。いずれにしても、誤解を招くようなことは訂正してほしい。9月に開催したことは、2月の団体からの報告ではなく、1月に発表すればよいのではないか。

〈廣瀬議長〉 9月に開催したものを1月に行ったように説明があったことを訂正してほしいという趣旨でよいか。

〈鹿兒島委員〉 学校説明会の時に多くの方が集まっていたので、その時に協議の状況について話をさせていただいた。

〈伊藤委員〉 時期がずれるとまるで臨時総会を開いて協議したかのように聞こえる。

〈鹿兒島委員〉 それぞれの委員の回りの人間関係で話を進めては収拾がつかない。地元代表協議会での決定に従っていくことで一貫している。2月の協議会の際はあくまで会長の役職として呼ばれていることもあり、このような協議状況をPTAでもお話をしたが、会長が決めてくれば良いというような結論になった。PTA全員と話ができていないわけではない。知っている方もいれば、知らない方もおり、どのように考えているかはわからない。

- 〈廣瀬議長〉 このことについて詳細に検討すべきことなのか。
- 〈伊藤委員〉 趣旨としては、役職についている方であるので、言葉を選んで発言してほしいということである。
- 〈廣瀬議長〉 大宮台小の前回協議会以後について報告はあるか。
- 〈鹿兒島委員〉 先ほどのご報告のとおり、どちらの学校に統合することになっても、地域の結論を受け入れるようお願いしたいと話している。
- 〈廣瀬議長〉 自治会関係では、報告はあるか。
- 〈加藤委員〉 平山町内会では4月14日に総会があり、会員293名中50名ほどが参加した。その席で小学校の統合の話をした。会長個人としての意見で発言して良いことについて賛同をいただいた。地域の代表として、賛同を得て投票することに承認いただいた。直接的にはなかったが、後でそれはおかしいのではないかと言っていた方もいるらしいが、当時の拍手を以て承認されたものと認識している。小中一貫校化は白紙とし、小学校の統合のみを検討するなかでは、どちらの学校がよいと考えるかについて賛同を得た。
- 〈宮崎委員〉 北大宮台自治会では、総会が4月14日に開催された。そのなかで小学校の統合について質問が寄せられ、説明した。何故統合を行うのかについては理解できるが地区全体のことを考えると大宮小の位置とすべきだろう、大宮台小とする理由がわからないという意見があった。どちらの学校になるとしても通学への配慮をしなければならないので、その方向でこれから協議へ参加していくと申し上げた。また、この協議会について住民アンケートは実施しないのか、説明会や協議会への傍聴はあるが、幼稚園や保育所等これから未就学児のいる世帯へのアンケートや地域住民を対象としたものを調査するのが大事ではという意見があった。
- 〈本澤委員〉 地域で学校適正配置に関して話題にあげた。統合をすることはやむを得ないのではないかと話をした。もう学校がどちらになるのかという綱引きが始まっている印象である。それについては今回以降、聞かれた際に理由とともに発言する予定であった。話がどんどん先に進んで、何故このような進み方になっているかは疑問だが、今後良い事・悪い事を含めて今後発言していきたい。
- 〈廣瀬議長〉 噂が飛ぶことで困惑することがあるだろう。今回各委員の意見を伺って、どのようになるかわからないが、評決していくことになると思うので、よろしくお願ひしたい。
- 〈伊藤委員〉 大宮台自治会での状況を報告する。会員から総会で意見があった。アナウンスが不足しているということがあった。大宮小になるのか大宮台小になるのかまだ決まっていないことを説明した。協議の進め方が早すぎるので、もっとゆっくり協議すべきという意見もあった。大宮台地区の中心から小学校がなくなることへの不安等、様々なご意見が出された。総会でも話題になっていたことを報告する。
- 〈廣瀬議長〉 ニュースでは出しているが、ご覧になっていない方も結構いらっしゃるようだ。アナウンスもどこまでやるかということもあるだろう。統合時期についていつ頃になるかという意見については、大宮台小の複式学級発生の問題があり、急ぐべきということになるだろう。
- 〈松坂委員〉 宮崎委員のご発言にあったように、統合時期に入学対象となる世帯だけでもアンケートを実施してはどうか。対象になる家庭を絞れば、そこまで対象は多くはないと思う。そこに協議会設立当初の学校適正配置の趣旨説明を含めて、調査してはどうか。その意味で11月24日の教育委員会の資料は適している。これまでの3回に渡る協議会を行ってきたなかで、教育委員会の説明趣旨が理解されていないように感じる。地区のなかでの立地や交通の便といったこともあるだろうが、大宮台小の創立のいきさつ、そういったものを除い

て、規模が大きい学校に吸収するようなかたちは簡単かもしれない。どちらに学校を残すべきかは、色々な方の意見を伺って総合的に考えるべきである。11月24日資料の小中一貫校化への展望を含めて、対象になる方がどう考えるかを調査してもよいという意見である。

〈廣瀬議長〉 対象を限定してアンケートを取るということについて、各委員はどうか。調査するにしても協議会として実務を行うことはできないので、自治会に依頼するといったようなことになると思うが。

〈伊藤委員〉 アンケートを実施するのはよいが、適正配置の対象をどの年代としていくのか。統合時期をいつに想定するかによって、対象者が異なってくるのではないか。

〈松坂委員〉 11月24日の教育委員会の提案に統合時期が示されており、その提案を改めて市としての方向として説明し、実施すればよい。

〈伊藤委員〉 統合時期は教育委員会の提案に過ぎない。本来は、学校適正配置は地域や保護者の議論を踏まえて、この時期に実施してほしいと積み上げていくべきものだろう。

〈松坂委員〉 行政では費用がかかる点などを考慮している。学校の提案は地元ではなく、行政が提案するものだろう。

〈伊藤委員〉 行政が一方向的に提案したタイムスケジュールに縛られるのはおかしい。

〈廣瀬議長〉 提案は協議会で一旦了承したものである。

〈伊藤委員〉 第1回の協議会の際に、提案は適正配置を見送るということもあり得ることを確認している。

〈廣瀬議長〉 その後に修正案として提示されている。

〈伊藤委員〉 地域住民には適正配置を行うことに反対されている方もいるため、適正配置をするかしないかを含めて検討するという事ではないか。

〈廣瀬議長〉 前回からAにするかBにするかということを決めるという結論になっていた。

〈豊田氏〉 提案のスケジュールどおりに進むとして、実際に統合が決まるのが2年後である。現在の1年生が3年生の時だと思うが、その時点で実際に通っている現在の小学生と実際に保育所や幼稚園から通うであろう未就学児へのアンケートでよいのではないか。

〈廣瀬議長〉 実施するならば、子どもがいる世帯になるだろう。

〈豊田氏〉 調査の名称も学校適正配置では何のことも保護者にはわからず、自分には関係のない事だと思ってしまうかもしれない。皆がわかるようなものにしてほしい。

〈鹿児島委員〉 アンケート調査については、第1回協議会でも話題になっている。ご指摘のとおり、当初から出ていた。もっとこれから統合に直面する人に聞いた方がよいのではということになったが、どうしてもその時々親の立場があり、そのなかで地元代表協議会が設立され、委員の構成も決まり、そこで考えていくこととなった。社会的なことなどを考えていくとこのスケジュールになるのは仕方がないことだろう。何故委員として呼ばれたのかという話も出た。そういった経緯も踏まえて、学校単位ではなく、これから地域の中で子どものことを考えていく。統合は決まっているのだから、どちらの学校にするかということだけだろう。アンケートの実施ということよりも、どちらの学校にするかを早く決定して、今いる子どもたちが次のことを考えられるようにしてほしい。これから、統合準備がどんどん遅くなってしまふ。先ほど触れられてが、当初は小中一貫校にならざるを得ないのかという議論から、第2回で小中一貫校化は見送り、小学校の統合のみに絞られた。本来は小中まで考えると議論が膨らんだはずであるが、小学校のみに絞られた。とにかく決定して議論を早く進めて、協議会での議論の後の統合への準備を進めてほしい。

- 〈廣瀬議長〉 アンケートそのものはあくまで参考のものになるだろう。ある意味では合意形成のための一つの手段かもしれないが、アンケートで統合校を決めるならば、そもそも地元代表協議会を設置する意味がない。
- 〈伊藤委員〉 自治会の総会では統合ありきで進んでいくのはおかしいというご意見が出されているが、どのように考えるか。適正配置するかしないかを議論する場で、統合ありきではないのではないか。統合するということが決まっているということに対して、地域の方々の不満があると伺っている。
- 〈廣瀬議長〉 確かに一部の方が決定に対して不満を持つこともあるだろうし、皆が全てに賛成するということはないかもしれない。一般的に考えると、一つの地域に二つの学校があって、片方が危機的な状況にあるのであれば、小学校の片方を救うことを考えるのは地域として当たり前な行動だろう。統合ありきという言い方はおかしいかもしれないが、小学校をどこに設置するかを議論していこうということになっている。
- 〈伊藤委員〉 それも含め、第1回のときに話が進んでいく中で統合しないということもあったはずである。
- 〈廣瀬議長〉 そのように考えるのであれば、委員の意見を伺って、A・B・Cのように3つの案をとることになるだろう。
- 〈伊藤委員〉 そのようになるだろう。
- 〈廣瀬議長〉 各委員はどう考えるか。
- 〈豊田氏〉 統合の有り無しを含めて、一度アンケートをとれば保護者の思いはわかるのではないか。結論には必ずしも結びつかないかもしれないが、保護者として意見は出していきたい。教育委員会を通して協議会で報告してもらっただけでは納得しない方も多い。自分たちの意見を協議会委員にもっと知ってほしい方が多い。
- 〈廣瀬議長〉 自分達のところには意見が届いていない部分もある。是非実施してほしい。
- 〈豊田氏〉 実施はしたいが、いろいろな学校行事があり、なかなかできない。実施するにしても総会で決議をとる必要がある。保護者が求めているのは、市がアンケートを行い、小・中学校や幼稚園・保育所を対象にしてほしいというのが、大宮小の保護者の意見である。
- 〈廣瀬議長〉 適正配置の趣旨を理解していない方にアンケートをするのもいかがか。ただ、子どもがいる家庭など、関心の高い方を対象に実施するのは有意義かもしれない。
- 〈松坂委員〉 あまりにも知らないという方が多いので、対象児童のいる方に説明を含めて実施し、参考にしていくのはよいと思う。主導するのはあくまで教育委員会で、市が行う学校適正配置について地域の理解を得るのが筋だろう。適正配置は必要がないと地元が声を出したとして、行政がそれを受けるのは問題だと思う。行政も経済情勢等も含めて総合的に様々な事を考慮し、提案してきているのであろう。そういったことを全て住民が無視して反対するのは疑問である。個人的には最初の説明の際に趣旨は理解できたので、学校をどちらにするかの方向を協議会で決めるべきである。ただ、どちらになったからといってそのまま通るわけではないかもしれない。例えば、A案で地元で合意されたとしても、教育委員会でC案で対処するのが最適であるということになるのであれば、それはそれで良いと思う。
- 〈廣瀬議長〉 要望としてまとめて提出するわけであるから、最終的には公的機関での決定ということにはなるだろう。統合が決まれば詳細な事項を準備会で検討することになるだろう。
- 〈伊藤委員〉 事務局に確認したいが、適正配置以外に手法はないのか。例えば、大宮台小を廃校にするということではできないのか。
- 〈廣瀬議長〉 小規模校を廃校にしてしまえば、適正配置を考える必要もないのではということだろうが、

いかがか。

- 〈事務局〉 基本的に、今ある小規模校を単純に廃校にして対応することは、現段階では考えていない。少しでも統合等の対応で考えていきたい。
- 〈伊藤委員〉 手続きを踏まないと、廃校にはできないのか。適正配置という形をとらないと廃校にできないのか。
- 〈事務局〉 手続き上は学校が廃校となることはある。例えば、これまで分校で複数年間児童の入学がなく休校となり、一定の基準に達した場合に過去に廃校となったことはあった。
- 〈豊田氏〉 先日教育委員会に問い合わせた際には、どちらの学校にするかは、協議会の意向が絶対になると伺った。協議会で合意されたことが覆されることはないのか。準備会で意見が覆ることもあるかもしれない。
- 〈事務局〉 学校も公的な施設であるので、決定そのものは行政が主体となって行うものだが、そのなかで地域からの要望書の提出を受けて、教育委員会会議で議決する。今までは、提出された要望書が教育委員会会議で否決されたことはない。
- 〈廣瀬議長〉 地元の意見を尊重するということだろう。

議題① 大宮地区学校適正配置（修正案）について

議題② 議決の方法について

- 〈廣瀬議長〉 協議に移り、各委員の意見を伺いたい。
- 〈宮崎委員〉 前回でも述べたとおり、大宮小の位置で統合する以外にはないと考えている。学校は地域の中心にあるべきで、大宮地区の中心は大宮台でそこにある学校であるためである。公的施設との連携や避難場所としての活用も見込むことができる。学校として使われているところに避難するのとそうでないのは大きく違う。北大宮台は大宮公民館が避難場所になるが、1,000人は収容できない。次に、学校教育において、生活・総合的な学習・社会科での教材として、地域・施設・人が身近にあることは重要である。学校の隣に公民館・幼稚園やスーパーがあるといったことを考えると、学習効果としても大宮小が良いだろう。ただ、大宮台小の児童が大宮小まで通学するデメリットを解消できるかを条件にする必要はあるだろう。条件を考えないまま、決定を行うのはいかがか。具体的には通学路である。ショートカットできる道路整備について前回意見があったが、時間や予算が必要ということであれば、スクールバスの導入もよいだろう。そこが実現しないと、どちらの学校がよいか決められないと思う。決め方については、多数決は地域にしこりを残すことになる。皆が納得のうえで決定するべきである。
- 〈松坂委員〉 大宮台小の位置とするのがよいと考える。一つ目には、教育環境が非常によいことである。近隣に住宅がなく、教育環境がよいと学校からも伺っている。二つ目には、大宮小へ通学することについて不便が生じることである。通学路やスクールバスがどうなるかだろうが、道路整備が果たして実現するのかどうか。バスも経済性・効率性を考えたときにこの地区はどうなのか。解決ができない。三つ目には、大宮小の跡施設を地域の活性化のために有効活用できる。跡地利用は別の場での協議になるようだが、大宮小の施設は利用価値がある。四つ目に、今回は小中一貫は議論しないことになったが、いずれ将来的には議論になる。その際には近隣に中学校があるのがよい。その場合、教育費用や財政負担を考えると、近くに学校があり、場所も広大なエリアを持っている。
- 〈加藤委員〉 大宮小の位置で統合するのが良い。児童の通学負担を考えた場合に、160名程度の児童がいる大宮小と55名程度の児童がいる大宮台小であること、大宮台小の学区内は通学路が

途切れているということが理由である。小中一貫を一緒に議論するのであれば考えも変わるところもあるだろうが、今回は白紙になった。その旨総会でも説明した。11月24日の説明会でもほとんど地域からの参加はなかった。アンケートを実施するつもりもないし、大宮小がよいことを発言することについても承諾も得ている。

- 〈本澤委員〉 大宮台小の位置で統合するのがよい。理由は通学路が大きな問題となるためである。スクールバスの運用を今後考えるのが条件だろう。本当は中学校との小中一貫校化を推進することが子どもに一番よいと思っている。最近では小学校でも英語が難しいというような報道がされており、英語や音楽等の授業でも中学校教員からの支援が得られやすい。小中一貫校にならなかったとしても、施設が隣り合っている以上、子どもにとっては有益だろう。
- 〈伊藤委員〉 どちらの学校がよいということはない。学校適正配置は白紙とするのが最もよいと考える。個人的な思いとしては、大宮小と大宮中を残したい。適正配置に伴って統合しても校名・校歌・校章を変えないという確約がない以上、統合には賛成できない。また、大宮台小は大宮小の大規模校化への対応として設置された歴史がある。統合ではなく、吸収するかたちなら大宮小とすべきだろう。大宮小の創立50周年の行事に市長を迎えた際に、大宮小は付近に全ての施設が集約されており、環境が整っていて素晴らしいと市長も発言していた。投票するのであれば、その発言もぜひ参考にしてほしい。
- 〈廣瀬議長〉 校章・校歌は統合準備会で検討するということだが、統合校の場所について投票しないということではどうか。
- 〈伊藤委員〉 投票はする。本来は統合準備会での検討になるのかもしれないが、これまでは統合ではすべて校歌・校章・校名が変わっている。重要な問題なので、そこは検討してほしい。
- 〈廣瀬議長〉 大宮小のまま残すということは確約できるのか。
- 〈事務局〉 現段階ではできない。準備会の段階での検討と考えている。
- 〈伊藤委員〉 学校の設置場所に関しては、大宮小とすべきという意見である。
- 〈豊田氏〉 鹿倉PTA会長の話をついてきている。統合校は大宮小としたい。学校が街の中心にあること、近隣に様々な施設があること、夕方にも大人の目が行き届きやすく安全に過ごしやすいたことが挙げられる。大宮台小は、スクールゾーンに地域や保護者は申請すれば通行できるが、警察車両は通行の申請対象外であり、現在見守りをしていないと警察から聞いている。ただし、大宮小で統合した場合は、平山町やローズタウンの児童の通学が困難になることは皆が思っていることであり、準議会で十分協議してほしい。
- 〈鹿児島委員〉 各委員の意見を伺いながら、みな同じ思いから生まれたものだろうと考えた。協議会で多数決をとるのは無理がある。協議会のなかで発言する方・しない方、いろいろ調べる方など様々である。協議会に選ばれて来て話をするなかで、今回までの内容はほとんど変わらないはずである。当初決定したとおりに統合ということで全員が一致した。これを踏まえてこれから進めていくのであれば、ここで一回すべてのことを合意して教育委員会に差し戻し、教育委員会の決定事項へ従っていくという状況だろう。統合校の設置については、大宮台小ということになる。ただし、地域社会のことを考えていく、これからの新しいことに対して、メリット・デメリットあるなかで、新しいことになりながら生活をしてきた。時代の流れで仕方がない部分もある。PTA会長として出席している以上、結論を出すのであれば大宮台小である。ただ、一旦は全員の意見を教育委員会へ戻し、教育のプロである教育委員会で先々のことを考えて決定していく。小中一貫が議論の枠組みから外れた以上、大宮台小にこだわる必要性がない。将来的なことを踏まえて教育行政を考えていくうえで、教育委員会にお任せし、しっかりした答えを出していただき、それに乗っけてい

くようにしたい。

〈前田副会長〉 将来の子どもたちの育つ環境を考えると、大宮台や北大宮の位置にあるのが条件がよいと思う。中学校区内全体で通学パトロールの際に保護者に話をいろいろと伺うと、皆さん通学環境を重視されているようだ。少しでも早く大宮小に大宮台小の児童を受け入れてあげないといけない。大宮台小では既に複式学級を編制する状況となっている。皆と同じ教育環境を整えてあげたい。

〈石井副会長〉 大宮台自治会内では、大宮小と大宮台小に通う児童に分かれている。せめて自治会の活動の中では一緒にしてあげたいし、友達意識を育てていくため、子どもの集いを行っている。同じ地域に住んでいながら、二つに分かれるのはいかがなものか。適正配置によって、一緒に学び、子ども同士で育つことが大事だろう。学力の問題だけではない。ちゃんとした子どもを育てることを主眼にしていきたい。良い学校を卒業しても、すぐに挫折する大人になってしまうことも多い。私はどちらの学校がよいとは言わないが、早く統合するのが子どもにとってよいことだろう。

〈廣瀬議長〉 大宮台小と大宮小で比較すると、学校運営の努力はどちらも変わらず、学校だけをくらべてみると優劣はない。環境面で見ると、これまで各委員からご意見があったとおりでらう。大宮小と大宮台小の環境はご理解いただいていると思う。その意味では、皆さんの多くが言ったほうが良いと思う。最近の新聞報道では、国の動きとして小学校において教科担任制を導入することについて、諮問がされている。これは小中一貫校化につながる議論になっていくのだろう。ただ、その程度であれば、現在の大宮小と大宮中の位置でも十分成り立つと思う。現時点では、地域の中心を重視して、学校を据えるのが意見である。各委員の意見がひとつとおりでそろうたが、まだ心残りの点がある。アンケートについて、地域で説明が不十分との声があることである。完全には難しいかもしれないが、合意形成を目標にしている。皆さんにお伺いしたいが、議決の方法に関する3つの案について、どれを採用すべきか。

〈宮崎委員〉 今皆さんからご意見がそれぞれあった。例えば大宮小がベターであるということが大宮台小を推す委員が納得していただくことが出来るとすれば、評決をとる必要もないのではないか。

〈廣瀬議長〉 今もし答えられるものであれば、大宮台小を推す委員の方をお願いしたい。

〈松坂委員〉 委員の多くの方が大宮小と意見するのは、それぞれの立場として意見を吸収したことであり仕方ないことだろう。皆さんが大宮小ということに対して、別に反論があるわけではないし理解もするが、大宮台小とする意見を撤回するわけではない。個人的な意見として変えるつもりはない。相対的に大宮小が多いということで協議会がまとめて、結論をどのように出すかは会にお任せする。

〈廣瀬議長〉 協議会としては大宮小として結論付けたとしても、少数とはなるが意見としてあったという整理でよいか。

〈松坂委員〉 相対的な人数の比較として、大宮小の位置で統合することは仕方がない。意見を撤回して大宮小がよいと意見を変えるつもりはないということである。協議会として大宮小に結論付けたとしても異論はない。最終的に学校適正配置をどこにするかをどこがまとめるかがわからない。合意された内容がどのように通るのかもわからない。

〈伊藤委員〉 要望書として提出し、今後の検討について準備委員会の場をもつというはずである。

〈事務局〉 要望書の提出、教育委員会会議での統合の議決、統合準備会での検討という流れになる。これまでの事例では、地域の意向を汲んだ要望書を尊重し議決されている。

- 〈前田副会長〉 統合準備会で通学や校名等の検討が出てくるのだろう。
- 〈本澤委員〉 松坂委員のご意見に同調する。それはそれで理解する。
- 〈鹿児島委員〉 協議会当初から基本的にはどちらの学校でもという思いはあるが、どちらと聞かれれば大宮台小と言わざるを得ない。多数決ではなく、協議会委員の多くが大宮小とするならば仕方がない。意見としては松坂委員と同じで、あとは教育委員会に任せることとして、賛同したい。
- 〈廣瀬議長〉 協議会として、全会一致とするか多数決で決めるかではなく、会として結論が出たということによろしいか。ただし少数意見として、大宮台小も出されたということ念頭においておくということだろう。石井副会長は明言されていなかったと思うが、どうか。
- 〈石井副会長〉 この協議会で決まったことであればよい。
- 〈宮崎委員〉 大宮台小の児童の通学のことを置いておいて、大宮小というわけにはいかない。どこで検討することになるのか。
- 〈鹿児島委員〉 P T A会長として、児童のご配慮をいただいていることには御礼申し上げたい。確かに通学の問題など、悩んでいることはたくさんあるが、各々家庭で話はしているようである。例えば多部田の地域では乗合で自分達で車を出そうとか、親同士のつながりで連絡をとりながら話を進めているところもある。どうしても対応できない家庭もあるということもあるが、別の家庭でやってあげようというところもある。準備会にお任せする方向でよいと思う。逆にこれで統合が遅れることの方がマイナスになるのではと思う。
- 〈宮崎委員〉 具体的に動き出したときに、自治会や地区町内自治会連絡協議会として通学問題を考えて、新しい道路を整備するとか、バスを動かすといったことを考えないといけない。保護者のためだけではなく、地域の活性化のためにも問題となってくるだろう。ローズタウンからコミュニティバスが千城台方面へ運行されていると聞いたことがある。同じ大宮地区で生活する地域として考えた時に、分断されているようなものである。自治会として、この協議の場でなくても考えてほしい。
- 〈廣瀬議長〉 確かに組織としては自治会で検討すべきものだろう。ただ、学校の位置を決めた理由として地域の活性化があるわけで、地域全体で活性化に向けて作業していくことになるだろう。
- 〈松坂委員〉 コミュニティバスについては、周辺の自治会長が委員になって、市の交通関係の組織主催となる会合に呼ばれている。そこで頻度や運行ルートの問題などが話題になっている。今回、通学が不便になることに対してコミュニティバスが使えるかという意見は、自治会の活動として意見を述べることになる。ただし、利用者や費用の問題で難しいところもあるが、地域団体としてバスの運用については要望できるだろう。
- 〈伊藤委員〉 ローズタウンのバスは白井地区のなかでの枠組みになるだろう。運行会社は京成バスであろう。もともと多部田は白井学区である。バスのことに関しては、地区としてどうなのか。大宮地区は中央バスである。
- 〈松坂委員〉 窓口は市の交通政策課になる。どのように地区を分ける考え方なのかはわからない。シティバスは地区によって3～4の業者が入っているようだ。それをどう利用するか考えればよいのではないか。
- 〈鹿児島委員〉 先ほどスクールゾーンのこと、警察車両は入ってこれるが、朝9時まで普通車は通行できない。もしここで働きかけをしていただければ、通学の時間帯だけでも開放してもらえれば、子どもたちを親が送迎できる。
- 〈加藤委員〉 東金街道からの抜け道として車両が多く通行することを防ぐための措置なのだろう。
- 〈伊藤委員〉 一部の保護者の意見で、変えるのはどうなのか。

- 〈廣瀬議長〉 実情は分かったが、そこをどう対応するかは、次の段階での協議だろう。
- 〈石井副会長〉 道路の問題で話が出た時に、26地区連協として要望を出すべきなのかだが、どちらの学校にするかということが必要であり、今年度中の要望として出すのは難しそうだ。来年度の要望には入れるつもりである。
- 〈廣瀬議長〉 結論を出してよいか。これで良ければということで提案させていただくが、大宮中学校の存続を前提に、統合校の設置位置を大宮小学校とすることで、今回の結論としてよろしいか。
- 〈委員一同〉 【 異議なし 】
- 〈廣瀬議長〉 議決の方法については検討する必要がなかったし、全会一致とまではいかなかったが、近いかたちで協議会としての結論とさせていただきたいと思う。

(3) 連 絡

- ・次回もう一度、今回の結論を踏まえ要望書としてまとめるため、協議会を開催するとなる。協議会会長・副会長名で提出いただくことになるため、その内容について、原案をお示しし議論いただくことを想定している。
- ・地元代表協議会として要望書の合意があれば、教育委員会に提出する流れとなる。
- ・次回は、令和元年6月8日（土曜日）10：00から開催することとする。開催日1～2週間前を目途に改めて開催案内を各委員へ送付する。
- ・大宮小の保護者の方を含め、地域の方から近隣の幼稚園・保育所で説明をすべきであるというご意見を多数いただいたため、次回協議会までの間に対応していきたい。

- 〈鹿兒島委員〉 次回は協議会として開催せずとも、議長一任でもよいのではないか。
- 〈事務局〉 事務局としては問題ない。
- 〈廣瀬議長〉 要望書へ記載する内容として、適正配置の関する付帯すべき事項はないか。
- 〈宮崎委員〉 協議会のなかで共通理解を図っておいた方がよいのではないか。
- 〈伊藤委員〉 委任状の提出を以て対応することでよいのではないか。
- 〈本澤委員〉 事務局から提示のあった日程については不在であるので、委任させていただきたい。
- 〈松坂委員〉 前もって原案が送付できるのであれば良いのではないか。
- 〈廣瀬議長〉 ぜひ出席はいただきたいが、欠席する場合は委任状の提出とすることでよいか。
- 〈加藤委員〉 都合が悪いため、そのように対応させていただく。
- 〈事務局〉 遅くとも開催案内の送付と同じ頃には原案をお示ししたい。